

第2回学校給食用食器検討委員会会議録

平成24年3月22日（木）
午後3時～
給食センター2階会議室

（事務局）

本日は、第2回の江別市学校給食用食器検討委員会にお集まりいただきありがとうございます。

本日は、事前に資料をお配りしておりますけれども、第1回委員会会議録の確認と、資料の説明及び協議事項についてです。どうぞよろしくお願いいたします。

（委員長）

第1回の検討委員会で、第2回の会議の方向性についてはある程度確認されたと思います。

それに基づきまして、精力的に進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは次第の3、確認事項の(1)会議録について、すでに、委員のみなさんには前回の第1回の会議録が届いていたと思います。ご覧になってなにか訂正等がありましたら、この場で確認したいのですが、ありませんでしょうか。

ないようですので、なしということで、進めさせていただきます。

それでは、4の説明事項に入ります。

（事務局）

委員長よろしいですか。

（委員長）

はい、どうぞ。

（事務局）

第1回の会議録について、ホームページに掲載させていただくということで、了解いただきたいと思います。

（委員長）

委員の皆さんよろしいですか。異議がなければ、そういうことでよろしくお願いいたします。

それでは説明事項の1について、よろしくお願いいたします。

（事務局）

前回の委員会で他の給食センターではどのような箸を使っているのか知りたいということで、ご要望がございましたので、道内の概ね1000食以上の共同調理場のある市町に対して調査をいたしました。18か所にメール送ったのですが、3か所回答がないところがございましたが、資料1にあるとおり回答をいただきました。

回答の内容は、箸の材質、長さ、メーカー名、購入単価、数量、購入時期等でございます。わからない部分は記入しなくても結構ですということで、調査をしたものですから、不明なところもあります。

集計結果は、1番目から5番目までがプラスチック製です。このなかで、食品衛生法に基づく個別規格というのが規定されているのは、1番最初のA市の小学校用だと思いますが、PET（ペット）ですからポリエチレンテレフタレートのことです。

この材質の食器については、個別規格はあるということです。それ以外の2番目から5番目までは、個別規格はないと思われます。

あと、1番から5番、10番、11番、17番、18番、それと江別がプラスチックということで、7番、8番と12番にビリアン材というのがございます。これは、別名ウリンと言うようで、東南アジア原産のかなり堅い木ということでございます。値段はうちで使っているプラスチック製の箸よりも高く、しかもA社に聞きましたら、1年程度しかもたないのではないかと言われました。販売実績から1年と言っているのだと思います。

A社は、B町とかC市に納入しているということで、このような回答だと思います。

13番、14番に京華木（きょうかぼく）というのがありまして、これはどのようなものかと言いますと、天然の樺（かば）の木にフェノール樹脂を注入して高圧プレスしたものだ、メーカーのB社に問い合わせをしたところそのような回答でございました。

フェノール樹脂自体は、食器とした場合に、個別規格はありますけれども、木に注入した場合どうかというのははっきりしておりません。

それ以外は15番、D市は竹ということになっています。

竹につきましては、以前、江別市でも使っていたのですが、曲りがひどくてやめたという経過がございます。ただ、資料に書いてあるように購入時期ところで23年3月と10月と書いてありますから、おそらく曲が多いので、年2回程度交換していると思われる。江別では以前、1年以上にわたって使っておりましたので、それで曲がったものが多くて学校からも、ちょっとひどいという話がありましたが、もしこれを半年程度で交換するとか、曲がっていたものが混じっていればどんどん交換するというのであれば、それはそれで可能だと思います。単価を見ますと1膳9円となっておりますので、現在のプラスチック製のものを買うことを考えると約12倍買えるということになります。そうしますと年2回交換しても値段的には6年分買えるということが言えます。

回答いただいたものにつきましては、以上のようなことですが、何かご質問等がございますか。

（委員長）

道内の調理場の箸の集計表が今示されましたけれども、今説明あったことで何かご質問等ありませんでしょうか。

（E委員）

自治体によって、選んでいる材質がいろいろあると思いますが、それぞれの自治体で選んでいるとき、入札とかしているわけではなくて、あくまでも価格とか自治体での基準に基づいて個別に発注しているかたちなのですね。

（事務局）

入札という面では、金額の問題になります。江別では何十万円以上になりますと入札とか、いくらからいくらまでは、見積もり合わせでいいとか、そういう形になります。ただ、江別で買うと1万膳以上になるため、結構な金額になりますので、その場合は入札になる

と思います。

(E委員)

そうですか。それぞれ自治体で選ぶときに、価格のほかに、たとえば安全性とか材質とかということを考えているかどうかまではわからないのですね。

(事務局)

それはわかりません。

いろいろなところで検討して、OKをもらっているというような話は聞いておりますが、どこまで内容的に掘り下げてやっているのかというのはわかりません。

(委員長)

そのほかございませんか。

それでは続きまして、(2)の道内市町村の食事用具等の参考1という資料をご説明いただきたいと思います。

(事務局)

これにつきましては資料の要望というわけではなかったのですが、自分が資料を探していたところ、北海道学校給食研究協議会の共同調理場部会で作成している学校給食運営管理調査票の中に、食器具に関するデータがありましたので、参考としてつけました。

これは、食器具としてスプーン、フォークや箸がございまして、それを給食センターが実際に支給している、あるいは、個別に持参している、あるいは、使っていないという状況を記載したものです。

まずスプーンですが、共同調理場166か所のうち152か所がスプーンを支給しています。スプーンを持参しているところが6か所、スプーンを使用していないところが8か所です。

横にいきまして、フォークの場合は同じく支給が85か所、持参が3か所、使っていないところが多くて78か所です。

箸につきましては、支給が82か所、持参が80か所、使っていないところも4か所あります。

単独校調理場については、28か所について、同様にスプーンが26か所支給、2か所持参、フォークは17か所支給、2か所持参です。箸につきましては、支給が18か所、持参が11か所、なしが1か所ということで、割合的には記載のとおりです。(共同調理場と単独校の合計で、スプーンが支給92%、持参4%、なし4%。フォークは支給53%、持参2%、なし45%。箸は支給52%、持参47%、なし3%。)

この中でスプーン・フォークを使用している場合は、支給しているところの割合はかなり高く、持参が少ないのですが、箸については、支給と持参が半々に近くなっています。そのあとのページの内訳につきましては、各市町村がどうなっているのかという、この表の内訳がございまして、参考程度にご覧いただきたいと思います。

以上です。

(委員長)

スプーン、フォーク、箸の支給又は持参についての説明がありました。

私も初めて知ったのですが、箸を持参している市町村が半数近くあるということが初め

てわかりましたし、石狩管内においてもE市とF市は、箸を持参しているという資料も次のページを見ればわかると思います。

それでは今の、食器用具等の説明で何かご質問ありませんか。

なければ説明事項の(3)、平成24年度の児童生徒見込推計人数について、説明をお願いいたします。

(事務局)

児童生徒の見込推計人数につきましては、24年3月1日現在で学校教育課が取りまとめたものでございますので、新年度において、実際には多少変わる可能性があると思います。学校ごとに各学年の人数をクラスの数で割ったものです。色分けしてある、クラス人数というところをご覧いただきたいのですが、例えば、江別小学校であれば1年生は23人で、ほとんどの学年が1クラスです。4年生のみ2クラスあるので45人を2で割って23人になります。1番人数の多い学校でいきますと、上江別小学校はかなり人数が多いので、1年生は28人ですが、2年生は33人になっています。現在、1・2年生につきましては35人以下になっていますが、上江別小学校では3年生からはかなり1クラス当たりの人数が多くなっています。

色を塗っていないのは25名以下のクラスです。青色が26人から30人のクラス、黄色が31人から35人、赤色は36人から40人となっていて、中学校にいきますとやはりクラス当たりの人数は当然多くなってきていますので、少ないほうでも28人、29人という状況です。

これにつきましては、例えば小学校低学年について、人数が多いと重量負担も大きいということで、実際クラス当たりの人数がどれくらいかということをご参考までに示しておきました。ちなみに全クラス314のうち、25人以下のところは16.6%、26人から30人の青色が22.6%、31人から35人の黄色が37.9%で一番大きく、36人から40人赤色が22.9%ということでした。以上です。

(委員長)

それでは今の、クラス数等の説明で何かありますか。

この部分は前回の話題にもなった、小皿の方向性としては、強化磁器の方向というのは見えたのですが、ただ課題であります重さについて、特に2~3キロ増えるということになりますから、小学校低学年、1年生は35人以下なので、少ないけれども、そのあたりが課題として挙げられましたので、それについての参考になると思います。

今の説明についてはよろしいでしょうか。

次に、説明事項の(4)食器カゴの重量確認ですが、今日は実際に、食器カゴを用意していただきましたので説明をお願いします。

(事務局)

皆さんに、1回持っていただこうと思います。これは現状の強化磁器の中皿が40枚、PEN食器の小皿が40枚、それとスプーン、フォーク、箸があるので、3つ一緒にお出しすることはありません。せいぜい二つです。スプーン、フォークが各1キロ、箸が1.2kgぐらいです。

それで、これが40人1クラス分の重さです。40人のクラスはほとんどないというの

は理解いただけたと思いますが、40人の場合ですとこの重さになるということです。あと、これに2.5kgほどプラスして、小皿が強化磁器になった場合も持っていただきたいと思ひまして、用意いたしました。

(委員長)

その左の2つは同じものですか。

(事務局)

これは数を減らしたものです。

35枚のものと、30枚のものです。

(委員長)

それでは実際に持っていただいて、実感していただきたいと思ひます。

順番にどうぞ。

出席委員が実際に持つ。

(委員長)

実際に食器カゴを持っていただきましたが、今の重量の確認のことで何かご質問ありますか。

とりあえず、説明事項の(1)から(4)まで事務局からの説明は終わりましたので、重量の関係も含めて何か質問がありますか。

(D委員)

食器は皿の他にカップは別のカゴですか。

(事務局)

カップは別なカゴです。

(D委員)

それは何kgくらいですか。

(事務局)

12kgくらいだと思います。

(D委員)

あとは、食べるものですよね。それはそれぞれどのくらいの重さがありますか。

(事務局)

食缶も40人分入ると10kg以上はゆうにあると思ひます。

(D委員)

食缶が1番重いんですよね。

(事務局)

そうです。

(D委員)

ご飯は40人分が1つのケースですか。

(J委員)

学校で分けて、2ケースにしています。

(委員長)

食器は2つに分かれているのですね。

(事務局)

カップのカゴと皿のカゴとに分かれています。

(委員長)

もう一回確認ですけど、重さは、こちら(皿)は何kgでしたか。

(事務局)

こちらは、計算すると14.25kgです。

(委員長)

もう一つ(カップ)のカゴは何kgですか。

(事務局)

カップは1個200gあります。ですから40個で8kgです。これにカゴと箸で3kgになりますので、約11kgということになります。

(委員長)

それでは、5番目の協議事項の(1)の小皿の選定ということで、これから協議していきたいと思います。

先ほども言いましたとおり、第1回の検討委員会の中で、小皿は強化磁器ということで、方向性が見えたと思います。ただ問題は先ほども言いましたけど、2kgから3kgの重量が増えることに対して課題があるのではないかとということで、それぞれ学校現場とか調理現場で、どうでしょうか。

学校現場という立場で、B委員どうでしょうか。2～3kgの重量が増えるということで。

(B委員)

前回の会議の後、子どもの運搬状況をいつもより注意して見ていたのですが、やはり今の状況からいうと、破損率も高くなると思いますし、重さは現場では負担になると思えました。

(委員長)

A委員どうですか。

(A委員)

基本的には2人で持ちますから、低学年で重ければ担任が手伝うとか、高学年は2人で2～3kgの増加であれば対応はできると思います。

(委員長)

前に委員会を設置して、現在の食器になるときもこの話が出ていたようです。たとえば、カゴを増やしたらどうかという話も出ていましたが、結果的には現在のやり方でまとまったようです。かなり重さが増えるということで、調理場の立場からご意見をいただけませんか。

(F委員)

中皿が強化磁器になった時点で、なるべく移動台を利用して運ぶことにしました。ご覧になった方もいらっしゃると思いますが、先に浸漬槽に往復で7分間通します。前半と後半で交互に替わってはいるんですけど、その時の持ち上げは、相当負担がかかっています。

今後さらに2 kgから3 kg近く重量が増えたカゴがだいたいセンター調理場では250個近くこなすということになります。現在でも頸肩腕症のような痛みはあるのですが、子どもたちの安全のためであればそれなりのスタッフの増員を考えていかなければならないと思っています。

(委員長)

これは物理的に重量が増えるわけですから当然負担が増えるというのは、避けられないことです。

対応の仕方については、前にもお話したように複数の子どもが持つとか、あるいは先生が手伝いをするとかも可能ですし、前も議論になっていたカゴの数を増やして一カゴ当りの重量を減らすということも、可能です。

重量についての課題を解決できれば方向性は見えるので、ご意見をいただければと思います。

(委員長)

調理場も学校も負担はあるけれども、なんとか安全・安心を考えると、そういうかたちで、対応せざるを負えないというような話がでていました。

(B委員)

強化磁器は破損時に飛び散りが大きい食器です。普通にポコンと割れるわけではなくて、パンと割れる食器です。

(委員長)

破損時の危険性のことですね。

(B委員)

私は子どもを病院に連れて行ったことが3回あります。落とした子ではなく、近くにいた子が破片で切ってしまいました。あれがいつぺんに破損したら、大変だと思いました。

(E委員)

たぶん学校現場でそういうようなことも想定されるとは思いますが、そのためにどのような工夫をすればいいのかということを考えておいたほうがいいと思います。

(B委員)

それもわかりますけど、~~た~~例としてというか、考えられることとして挙げました。

(E委員)

もともと検討委員会を立ち上げていただいた経緯というのは、食器の安全性ということに第一ということで、この会を開いていただくようにしていただいたのです。その中で、何を大事にするかということやはり子供たちの健康なのです。その次に、実際に運搬とか洗浄とかそれぞれのところで、大人が関わる部分とか、そういう所の工夫はどうしたらいいのかというのを考えていくのが順序ではないかなと思います。たとえば、前回のときは、中皿を強化磁器にして入れましたが、小皿がPENなので相対的な重量は、今また小皿を強化磁器に変える場合に比べるとずっと低いことは確かなのです。初期投資がかかるかもしれませんが、たとえばカゴを分けるということも考えることも可能ではないかと思うのです。短い期間、何年間しか使わないというのではなくて、この強化磁器というのは、また再生できます。なので、破損してそのまま捨ててしまうのではなくて、再利用できる

ということを考えてとトータルで環境への負荷も少ないですし、安全性も高いというのであれば、そういうような視点で選ぶことが重要じゃないかと思うので、それをいかにして工夫してできるかということをもし考えることができるのであれば、予算の都合もあると思いますけども、そちらのほうが重要ではないかと考えております。

(委員長)

割れないということを考えて、今使っている前の食器に戻ってしまうということになりますので、とりあえず、今の強化磁器になったという経緯を考えると、そこからの話にもっていかないといけないかなという感じがしました。

その重さのことが今ありました。個数をさらに小分けにすれば、重量の問題も解決できますが、ただそれは実際に可能かどうかという問題もあります。

(事務局)

前回平成20年に検討された、カゴを分けることにつきましては、実際にはなんとか分けずに対応していただきましたが、今回はさらに重くなりますので、もし強化磁器を導入するのであれば、その時点で対応が難しいかどうか実際に持ってみて、難しい場合は給食センターと協議していただくことは可能だと思います。

ただ、全てのクラスがカゴを分けてほしいということになれば、また難しい問題であろうかと思えます。現在、児童生徒数が毎年300人ほど減っていく中で、クラス数や人数の数にもよりますけれども、対応できるのではないかと思います。また、どうしても持てないというものを持てというのは無茶な話になりますので、その場合はそう対応していくほかないのかなと思います。

(委員長)

というお話ですが、B委員いかがですか。

(B委員)

もしそういうような考えでこの会議を開いているのであれば、前回A委員がおっしゃっていたように結論は最初から出ていたと思います。

実際、学校現場で先生が必ず付いていられるかとか、安全面を考えたときに、これはちょっと考えなければいけないところはあるような気がします。

(委員長)

それでは、他の委員さんで重量のことについて何かご意見ありませんか。

(副委員長)

私が割れたのを見たことがあるのは、実際に子どもが落として割れたところに遭遇して、先生がいらっしゃらなくて割れたものをどうしようかという、あわてた状態でした。滅多に割れないというものが割れて大変な思いをしている子どもたちを見た経験があります。また、それと別に、トラックの中身というのはわかりませんが、カゴを分けたとして、今給食を配達している車の中の状態がちょっとわからないので、重たくなってカゴが増えて給食を配達する時間等も関係してこないのかどうかというのも気になります。別な話になってきてしまいますけれども、いろんな面で不都合が発生するのではないかと思うのですけど、そのところはどうかでしょうか。

(事務局)

先ほどクラスの人数を資料でお出ししたのですが、実際クラスの人数が30名以下の場合にはほとんど問題にならないと思います。問題は低学年の場合です。重量だけに限った話ですけども、小学校の低学年では最大で35人です。青色の30人以下はそれほど負担がかからないと思います。現在より少し増えるということで、40人のクラスで2.何kgか増えるということですから、30人ですと2kgちょっとということになると思います。全体重量でいくと当然30人ですと10kgは切ると思いますので、それは持てるのかなと思います。問題はやはり赤色になっている場合で、対雁小学校の3年生が37人ですからこの場合はどうかとか、実際にはそういうところが具体的に問題になります。あと上江別小・いずみ野小です。3年生・4年生で赤になっているところとか、そういったところが実際に問題になってくると思います。全てのクラスで重量が問題になるわけではないと思います。特にこの白いところにつきましては、25人未満ですから全く問題ないと思います。ですから、カゴを分けるという場合も、今言ったような中学年ぐらいで赤のところとか、低学年でも黄色はどうかと思いますけども、そう考えると対応していくのは可能だと思います。全てのクラスがカゴを分けてほしいとは言わないことを前提として。確かにカゴを分割する数が多くなりますと、コンテナの数が足りなくなってきました。現在、コンテナは5段に分かれていまして、食缶を入れる部分が1段、フライ入れが2種類ありますからそれが2段、食器が2段です。それで5段になっていますので、たとえば6クラスちょうど入れているところに食器カゴを増やしてくれということになりますと、それが入らなくなります。ただ、今全部のコンテナに6クラス分を入れているかどうかはわかりませんが、コンテナが足りなくなるという可能性はあります。前回平成20年の時はそういうこともいろいろ考えましたが、あくまでも想像でしかないものですから、実際にどうなるかはわからないのですが、先ほど申しましたように、全部はそういった対応を望まれないだろうということを考えれば、なんとかしていかなければならないと考えています。

(委員長)

今、話がありましたように、たとえば小学校の3年以下の赤の部分はカゴの数を増やすということも現実的には可能だと思います。

(J委員)

カゴを増やすということですが、学校現場で配膳台に配膳員が食器カゴや食缶などをセットしますが、今よりもう一つカゴが増えるとセットできないと思います。台の上にもう一つのカゴを置く場所がありません。

(事務局)

配膳台が小さいのです。配膳台がたとえば2台いるとか、そういったことも出てくるかと思っています。今載せているところにさらに乗せると、崩れて落として割るという危険な状態がでてくるかもしれません。それはもう配膳台まで考えなければなりません。あるいは大きな配膳台を買って、危険が無く乗るようにするとか、そのへんはやはり考える必要があると思います。

(副委員長)

問題が二通りに分かれている気がします。重量の問題点と、割ったときの生徒たちに安

全かという問題になっているような気がします。両方から考えていくべきなのでしょうね。B委員は、割れた時のことを考えて、破損の時のことも踏まえていますよね。

(B委員)

重くなるということは、破損率が高くなることだと単純に考えます。

(副委員長)

危険性があるということですね。

重量が重くなった時に、重くはなるけれどもそれは協力し合えばなんとかなるということですよ。

(E委員)

食器を選ぶ選定の目的は何かということですよ。だからちょっとずつずれていっているような気がします。どこに視点を置くかということだと思います。B委員がおっしゃったように壊れたときとか、保健室の先生としての立場としていろいろ心配されていることは事実だと思うのですが、例えば、食器は割れるものだということを子どもたちに教えなければいけないと思います。もしかしたら家庭でも割れない食器を使っている方がたくさんいらっしゃるという現状があったら、食器は割れないものだという認識があれば、それが本当に大丈夫な食器なのかという疑問も持たないと思います。そうではなくて、教育現場であれば食を通して必要なことを知ってもらうということも学校の給食のひとつのあり方だと思います。そういう意味でも、何を一番大事にするかというところに視点を置いて物事を考えていかなければ横にそれていってしまうと思います。

(D委員)

重さのことで割れた時の安全性については、たしかに割れるものだということを教えて、きちんと対応を教えるということも大事だと思いますし、全体を落としたときに飛び散らないようにするのでしたら、よく自転車のカゴにカバーをかけるような、なにか飛び散らない工夫というのはそんなに難しくなくできるのではないかと思います。子どもの安全は大事ですので、飛び散ることが、前提としてはあるということを考えて、その対応もしていく必要があると思います。食器が全部同じ強化磁器になってもそれは同じだと思うので、まずは安全性が確保できればいいと思います。

(委員長)

安全性については、現在の強化磁器という方向性がある程度でています。落としたりとかについてはやはり学校現場の指導だとかあるいは工夫だとかがどうしても、2～3kgの重量の増加じゃなくともともとのその指導の必要性があるという意見でした。

B委員が心配している、重くなると実際に落とす可能性が高まるというのは、個々の配食をやっているときに落としてしまう。これそのものを落とすという危険性は実際あったのですか。

(B委員)

2回か3回あったのですが、全部は割れていませんでした。

強化磁器がとてもいいのはわかるのですが、いろいろなリスクを冒してまでも、こちらに変えなければならないぐらいプラスチックの食器というのは危険なものなのでしょうか。

(E委員)

危険かどうかというのが、これから厚労省で検査をしていくという段階です。ですから、わからないものを使っているという現状だということを押さえていただけるといいと思います。リスクとおっしゃっていましたが、何をもちょうどリスクだとするかというのが、ちょっとそごがあるような気がします。割れた時のリスクと考えるのか、毎日食べる食材を乗せるもののリスクと考えるのか、そこのところがとても離れているようにしか考えられません。ですから、とても失礼かもしれませんが、健康を気遣っているというところを担っている先生であれば、そういうところもできれば子どもたちに指導していただきたいと逆に思います。

(委員長)

前に話したときも、こういう議論でかなり討議されています。それで今使っている磁器食器になったと思います。それについては方向性についてやはり磁器に変えていくという点では、前回も方向性はある程度見いだせたと思いますので、そのことについてはまた戻すということはない方がいいと感じています。

(B委員)

そうであれば、この会議はなんなのかなと思います。第2回目のこの小皿に関しても、そういう方向性が決まっているのであれば、この忙しい中にこんな2回も集まる必要があったのかと正直思ってしまう。

(事務局)

前回いろいろ意見や指摘がありましたので、食器を更新する場合は検討委員会において検討するということになりました。たしかに強化磁器に決まっているのではないかというご意見もあろうかと思いますが、そういうきまりがあるため、検討していただいています。あともう一点、箸についてはどうしても検討していただかなければならないということがございますので、よろしくお願ひしたいと思います。

(委員長)

箸については、最初から検討していくこととなりますので、検討委員会はすごく大事だと考えています。

そういうことで、小皿の選定を進めてまいりたいと思います。

先ほど重量の問題がありました。現実的にはカゴの数を増やすということは、先ほどの配膳台の話もありましたけれども、難しいというように感じました。あとはその学校現場での工夫だとか、そういうことをこれからやっていかざるを得ないという現実も感じたのですが、いかがでしょうか。

(委員長)

特に意見がないようですので、今の小皿を強化磁器にするという方向性についてはここでまとめてよろしいでしょうか。

特に意見が無いようですので、小皿についても他の食器と同じように強化磁器ということで委員会としてはまとめたと思います。

ただ、先ほどから話に出ている食器を割った時の危険性だとかその他の課題について実際に各学校で重くなったものを扱ったときにまた出てくる可能性はありますので、その時

にはこの委員会を開催して、そこでさらに検討するというところでどうでしょうか。

(事務局)

この委員会の役割ですが、食器及び箸の選定をるところまでです。

選定したあとについてどうかということまではこの委員会の所掌事項となっていません。それによって別なものにしなければならないという意見が出てくれば、それはまた開催しなければならないということになります。

(委員長)

この委員会では、選定するところまでということですね。実際にその食器を使用するなかでの課題などを話し合う機会や委員会というのがありますか。

(事務局)

学校給食会の理事会になると思います。

(委員長)

ということでB委員、また実際に課題が出てきたら話し合う機会はあるということです。

(事務局)

何か課題がでてきましたら、学校からセンターのほうにこういふことで困っているというふうなお話になろうかと思います。

(委員長)

ではそういうことも押さえて、小皿については強化磁器ということでもとめをしたいと思います。よろしいでしょうか。

(B委員)

さっきおっしゃっていた、食器カゴにカバーをかけるのかなにかそういうことも前向きに考えていただければと思います。

(事務局)

正確な必要数はわかりませんが、例えばカバーでも洗わなければならないカバーですと、カゴの数だけとなると、両調理場で800くらいになると思います。それを現状では洗浄するラインがありません。洗わないで済ませることは、衛生的には問題があると思いますので、現状ではカバーの使用はかなり難しいと思います。

(B委員)

それでは、事故が起こってからなにか対応が始まるということですね。

(事務局)

カバーというと全部覆わなければなりませんよね。

(B委員)

なにか他の方法でもいいのですが。

(D委員)

一緒に洗えるようなネットのようなものはどうでしょうか。かければそのまま洗えるというふうな。

(事務局)

ネットは高温の乾燥・消毒に耐えられるかどうかの問題があると思います。

むずかしいですね。

(委員長)

カゴに蓋のように、パタッと閉まるようなものがあればどうでしょう。

(事務局)

そうしますと横が開きます。全部を覆うケースのようなものが必要だと思います。

(D委員)

上だけ覆われていたら、飛び跳ねてボンと出ることはないと思います。

(事務局)

カゴごと落として割るということは、ほとんどないですね。

それだけ大量のものを割ったというのは年に1回あるかないかだと思います。カップの破損率は10%以下で、皿は5%以下だと思います。ただそれが多いと考えるか少ないと考えるかは別ですが、その程度は最低限割れます。10%以上割れるとそれは形状的に問題があるという気がしますし、それだけ割れると大変です。ただG市では、以前は30%ぐらい割れていたと聞いています。それは入札で安い金額のものを入れているというように聞いています。ようするに、形状の強さですとか厚みですとか、そういったものを無視した形になります。あとは、重ねた高さが高いからだめだとか、そういう注文をつけますとどんどん強度が下がっていきます。江別ではそれはしたくないのでなるべく強いものを作ってくれというふうに注文しているので、このような低い破損率となっていると思います。

(委員長)

カゴ自体を落とすことはないと思っていたのですが、実際に落としたという例があるということです。

(B委員)

ガシャンではなくてダラダラっといったというか。雪崩のような感じで落とすことがあります。

(委員長)

とりあえずそのことについては今どうするかという議論にはしませんが、もし各学校でそういう危険性があるという指摘が複数あがってくるようであれば検討は必要だと思います。

(C委員)

上だけ押しえられていけばいいという感じですよ。

難しく考えなくてもゴムのようなものでも。

(委員長)

とりあえずそういうような意見があったということで、押さえておいて、もし本当にカゴを落とすということが実際にあり得るのだと、もっと安全性が必要ということであれば、本当に検討する機会を持っていただければと思います。

ということでよろしいでしょうか。

それでは、箸の選定にいきたいと思います。

箸のほうも少し触れて今日決まらないまでも、少し触れて次の会議につなげたいと思います。

箸の選定ですが、先ほど箸も資料により、説明いただきました。

箸の選定について、どのような流れで進めていったらいいかという意見はあるでしょうか。

(D委員)

箸の材質の選定をするのも大事なのですが、今回いただいた資料を見ましたら、持参しているというところがこんなに多いというのがわかったので、例えば各自子どもたちが箸を持ち込むことについても触れていただいて、それが難しいということであれば、より安全なものを選定していただくというのも一つだと思います。

(委員長)

私もさっきお話ししたように、結構箸を持参してきているという例もあるようですので、そのあたりも含めて話を進めて、難しいとなれば、全員使う箸をこの委員会の中で選定するというようにしていくということで、箸の持参について意見をお聞きしたいと思います。

(事務局)

補足ということでよろしいでしょうか。

参考1の資料の内訳の3ページの下に書いておいたのですがけれども、なぜ持参しているかということで、E市とH市の例が書いてあります。E市はお聞きしたところ、先割れスプーンはいろいろ問題があるということで、江別市でもやめたのですが、それを通常のスプーンに変える時に、それまで支給していなかった箸を使うということになり、その時に箸は支給しないで持参してもらうことになったということです。H市につきましては、ご飯を提供するようになった時ということですから、おそらく昭和50年代だと思いますが、その時に箸とスプーンを持参することにしましたということで、かなり古い話なのですが、どちらも何かのきっかけがありまして、持参になったようです。江別はずっと支給しているということで、ちょっと事情は違います。

(委員長)

それでは、箸を持参するという点について、何か意見はありませんか。

箸持参ということであれば、この会は終わってしまうのですが、まだおそらくそこには課題というか、問題というのは当然あると思いますので、ご意見をお聞かせください。

学校選出の委員の方は、E市、F市の経験はありますか。

(A委員)

E市があります。

(委員長)

どうでしたか。

(A委員)

特に大きな問題はなかったと思います。小さな問題としては、箸を忘れてくる子がいるので、そういう時は一緒に入ってきているスプーンで食べたり、あるいは担任が割り箸を用意しておいて、その割り箸で食べるというふうに対応していました。

(委員長)

これから箸を持ってきてもらいますと言った時に、保護者のほうからどういう反応があ

るかというのは少し心配ですね。

あるいは、箸を忘れてくる子への対応だとか、その箸を机の中にずっと入れっぱなしで洗わない子だとか、実際にあるのではないかと思います。そうすると、本当に安心・安全・衛生面からも問題があるかもしれません。

(副委員長)

食器で安全面を考えているのに、直接口の中に入るものがどうなるかっていうのが心配です。

持参するものが、材質にもよりますけども持ってくる方によっては、安全性の低い箸を使用することも考えられますので。

(D委員)

たしかに衛生面というのはとても心配です。1年生2年生はお母さんも気をつけますけど、特に高学年になったら、自分で洗いなさいと言われていて、洗うのを忘れてそのまま持ってくるというような、自分の子供の小さい時を考えると絶対あると思うので心配です。ただ材質というのはたとえばそれがもし安いプラスチックの箸であっても給食の箸は高温で食洗機で洗われるんですけども、家庭で普通にぬるま湯とかお湯で洗っている分については、洗った時点での何か抽出というか化学物質が出るというのは少ないと思うのでその点では安心かなと思います。一長一短がありますのでそれもよくわかりませんが。

(委員長)

先ほどE市の例では、先割れスプーンをなんとかしようということで、そういうきっかけがあったので、おそらく保護者にもその旨伝えやすかったと思います。今回、江別の場合はそういうような流れで話がきていませんので、そういう説明あるいは案内文を出すと、保護者の方からどうしてという心配は当然学校現場にはあると思います。それと衛生面ですね。これについては議論がもう少し必要というような気がしますし、もう少し何か意見ををお願いします。

栄養教諭の立場でどうですか。

(I委員)

空知の給食センターにいましたが、空知のほうは結構箸持参のところが多いです。私がいたところでも箸持参でしたが、先ほどおっしゃられていたように持って帰らないで、そのまま次の日も持ってきて学校で水洗いをしていることもあったので、衛生面ではやはり栄養士の立場からすると、個人管理で子どもに任せるのは難しい部分があると思っていました。空知ではそういうところが多かったので、持って帰ってきちんと洗うということを徹底するように指導していましたが、この資料を見て石狩管内は支給しているところが多いということを初めて私も知りました。衛生面から言うと給食センターで管理するのがいいと思います。

(J委員)

私も同じです。衛生面を考えると個人で持参するよりは支給する方がいいと思います。

(事務局)

たしかに持参すると、今の意見にあったような洗い忘れ、持ち帰り忘れが出てくると思います。それに対応するには、給食センターで予備と言いますか、そういった洗ってこな

い、持ってくるのを忘れたという場合に備えて箸を提供するということも可能だと思います。ただ、そうすると持参する子どもがいなくなるということになるとそれは別な意味で困りますが。

(E委員)

箸もやはり5年ごとに更新するのですか。

(事務局)

基本的にプラスチックは5年と考えています。決まったものはないと思います。ただ、メーカーもプラスチックの食器については5年、千回使用で更新と言っています。前回もそういうお話で進み、どなたも異存がないということでしたので、プラスチックの食器は5年で更新ということになりました。ですから箸も同様だと思っています。

(委員長)

箸持参について検討していますが、まだ委員の中でもそれがいいという強い意見は出ていないと感じました。それから事務局のほうで案を出していただいたものについても結果的には中途半端になりそうな、そんな感じがしますので、やはり箸を持参にするかどうかはもう少し、次の更新の時までに各現場でもいろいろな意見を聞いてそれに向けて話し合いを進めて、今回ではなくて次回に意見を持ち寄ってその方向性を考えた方がよいと考えましたがいかがでしょうか。

今回のこの委員会では今ある箸を更新するという方向で進めていきたいのですが、よろしいでしょうか。

では、そのような方向性で進めたいと思います。

箸の更新をする場合、安心・安全を考慮することについては当然よろしいですね。

それによって重さがうんぬんということはないと思います。ただ、価格の問題はあるかもしれませんが、基本的には安心・安全。それから、ある程度の耐久性や、もちろん経済的な問題もあると思います。事務局から出された資料がたくさんありまして、これは我々素人が考えていくとき、あまりにも漠然としすぎている気がします。ある程度検討の範囲をもう少し狭めていければいいと感じました。

(事務局)

団体代表のお二人の委員に確認したいと思うのですが、ここに出ているプラスチックですけれども、PETは個別規格がありますが、それ以外はないと考えてよろしいでしょうか。

(D委員)

全部は見てないのですけれども、たぶんそうだと思います。

(事務局)

前回も食器の話ですと、個別規格がないものはやはり難しいとお考えになりますよね。食器ではないのですけれども、個別規格は包装容器についてだから、箸には規格がないのですが、形状が違うから別だという話にはならないと思います。ですからプラスチックでよいのかと言っても個別規格があるのはペットだけで、ビリアンという木は値段が高くて1年しかもたないということになりますと予算的にはかなり難しいということになります。通常ご家庭で使うぶんには問題ないと思いますが、給食センターの洗浄、高温の乾燥、消毒といった方法がこの材質をダメにするのではないかと思います。京華木というのはフ

フェノール樹脂を注入しているということで、フェノール樹脂自体は食器としての個別規格があったとしてもその樹脂を注入したものということになりますから、これはちょっと別物として考えなければならないという気がします。残るのは、竹製ということになります。可能性としては、個別規格があるペットの樹脂、値段が高く消耗度が激しいけれどもビリアンにする、あるいはフェノール樹脂を注入しているけどもフェノール樹脂が大丈夫だと考えて京華木とするか、ただこれは値段が高すぎて予算的には難しいので、あまり検討していただく必要はないと思います。あとは値段の安い竹を交換頻度を増やして曲がったらすぐ取り替えていくということで使っていくか、そんな選択肢になろうかと思います。

(委員長)

今いくつか案を出していただきました。

確認ですが、選択肢はペットが一つ、それからビリアン、それから京華木、そして竹製ということですね。その理由についても今お話しがあったとおりでですけど、まず今の説明で何かご質問はありますか。

(A委員)

個別規格というのはなんですか。

(事務局)

食品衛生法によりますと、食器包装容器等の、法律で決まっている規格があります。食器については一般規格と個別規格があって、一般規格は鉛ですとかそういったものが溶出してはダメだとか、個別規格はさらに、十何種類かの材質が出ておりますけれどもその材質についてこういった試験をしてやりなさというなかにこのフェノール樹脂でできたもの、ホルムアルデヒドを原料とするもの、ポリエチレン、ポリプロピレンとか個別の材料について、個別規格が規定がされておまして、その規格に適合したものは使っていいとしたものです。個別規格がないということは、その規格すらないので安全性が保証されていないというのが前回のプラスチック使用への反対意見です。

(A委員)

今、原案として出された4つはその個別規格があるのですか。

(事務局)

PETは個別規格があります。ただあくまでも器具及び容器包装ということですから箸とは書いてないのですが、同様のものと考えます。

(A委員)

フェノール樹脂というのは個別規格があるのですか。

(事務局)

それ自体は、フェノール樹脂メラミン樹脂またはユリア樹脂を主成分とする合成樹脂製の器具または容器包装ということで、個別規格があります。

ただ、あくまでもそれは容器ということで、フェノール樹脂で作った容器ということになりますので、京華木は、木にその樹脂を注入したという点が、意味合いがちょっと違うと思います。

(委員長)

わかりました。本当に難しいですね。

その他ご質問ありませんか。

(副委員長)

竹というのは、日本製ですか。やっぱり中国製なのでしょうか。

(事務局)

おそらく外国製だと思います。現在入っている箸はほとんどが外国製ではないかと、A社の担当者は言っていました。やはり製造コストが問題なのではと思います。材料もあるでしょうけど。

ただ箸に何かを塗ったりしない限り、竹は大丈夫だと思います。何かを塗ったりするとその塗った材料が問題になります。

(E委員)

同じような質問なのですが、竹は、まず原産地ということでは残念ながら日本にあったとしても加工したら高くなるだろうからこの値段じゃ入らないんだろうなと思ったんですが、前回の時にこの今の箸にする前は竹でしたよね。その時もだいたい価格的には単価として10円くらいだったのですか。

(事務局)

たしかそうだったと思います。かなり安かったはずです。

(委員長)

聞いた話だと、前に竹箸を使っていた時はすぐに曲がってしまって大変だったというのは聞いております。

ただ、それを交換間隔を半年に1回とすれば、その課題は解決できると思います。

(事務局)

前は1年半くらい使っていました。それで洗浄してすぐ濡れたものを高温で乾燥させるとこれは曲がります。ですが、その洗浄・消毒方法は変えられません。

(委員長)

今現在使っているのはペットですか。

(事務局)

うちで使っている箸は資料1の一番下に書いてありますシンジオタクチックポリスチレンというものです。

(委員長)

これはどのようなものですか。

(副委員長)

これですよね。(配布していた箸を指して。)

(事務局)

それは、たまたま京華木のサンプルが届いていたのでお配りしたものです。

これが現在使っているものです。(展示してあったものを取り出して。)

ポリスチレン自体は個別規格があります。ただポリスチレンを別な触媒を使って製造しています。その触媒を使うということは、触媒についてもやはり検査が必要なのではないかというご指摘です。

(委員長)

先ほど事務局のほうから4つほど出していただいたのですが、そこに現在使われているものが入ってなかったのですが、それはなぜですか。

(事務局)

それは、ポリスチレン自体はいいのですが、この場合は触媒として、メタセロンという触媒を使っています。その溶出試験が行われていないので、シンジオタクチックポリスチレンは安全性が保証されていないのではないかという前回の指摘です。それで、除いています。

(委員長)

ということでこれは完全に無くなったということですね。

(事務局)

なくなったというか、前回の議論では、その時点では買ってしまったのでそれを捨ててまで交換しなくてもいいけれど、よろしくないものだということでした。

(委員長)

というわけで選択肢には入っていないということですね。

(事務局)

前そういうお話だったので、選択肢には入れられないと判断しました。

(委員長)

それでは、もし質問がなければ、先ほどの4点の材質について提案があったのですが、4点にしぼってよろしいかどうか確認したいのですが。

(E委員)

しぼる前に、それぞれの材質がどのようなものなのかということとか、安全性とかという点で、例えば選んで大丈夫かもしれないというペットのポリエチレンとそれからビリアンとか京華木と竹とありますが、それぞれが、どんなもので出来ているかというのがちょっとこの資料だけでは解らなくて、今説明していただいたのですが、それでみなさん判断できるのかなというのがちょっと難しいなと思ったのですが。

(委員長)

そのような意見がでていますが。

今の質問に対してはすぐに答えはできますか。

(事務局)

みなさんがそれで判断できるのかというお話ですよ。

私がお答えするようなことではないと思います。

(E委員)

紙面でいただいたもので、今事務局が選ぶとしてはこれらかなというものを口頭でお話をしていただいたのですが、それを聞いてみなさんがじゃあこれにしようと思えるのかかなと思ったのです。たとえば、これではよく解らないというのであれば、もうちょっと解りやすく何か資料が必要なのか、解るのでこれで判断しましょうとなるのか、その辺がどうなのかわからなかったなので、いま意見として言わせていただきました。

(委員長)

E委員については今のでは解らないということですか。

(E委員)

たぶん解らないのではないかと思うのですが。

(委員長)

他の委員の方、いかがですか。

(B委員)

安全なものかという観点でいうと、安全と認定されているものか知りたいですね。

(委員長)

同じような意見ですね。

(A委員)

私は、今話を聞いていて、私なりにはこれとこれかなという判断は自分ではできたんですが、もっと詳しい資料があればもっときちんと判断できると思います。

(委員長)

ということですので、今出された材質の安全性ということですね。その部分について、やはり資料をいただいて判断材料にしたいというのが大方の意見だと思うのですが、いかがでしょうか。

(事務局)

E委員が言われる資料というのはどこまで調べればいいですか。

(E委員)

たとえば、メーカーに問い合わせることはできますよね。

(事務局)

できます。

(E委員)

そこでメーカーとして出している情報がどんなものかというのを、100%それで判断するというのが正しいかどうかはわからないんですけど、まずそれはとれるかなと思いますので、メーカーのほうで出している材質に対する検査結果とか、情報としてあるというのが第一かなと思います。あと、価格的なこと、ここにある京華木と、フェノール樹脂はどのように抽出しているのかということで、これもどうかという気がするので選択肢が狭まるかもしれません。

(事務局)

京華木は高く買えませんので外させていただきたいと思います。

調査したのでそれを乗せたということで了解していただければと思います。

高くフェノール樹脂が入っているということで、これは選択肢から外していただいたほうがよろしいかと思います。

(E委員)

そうですね。

(事務局)

ビリアンについては、ビリアンの木を使っているという回答だけになってしまうと思います。

(E 委員)

材質もちろん国産ではないのですよね。

(事務局)

ビリアンは、東南アジア原産の木です。

(E 委員)

例えばそれらの材質のどれか選んだとして、今ある給食センターの設備で洗浄して使った時の耐久性というのはどのくらいなのかということも示していただきたい。

(事務局)

ビリアンについては、先ほど申しましたとおり値段もやや高く、72円と140円と100円です。値段はまあまあにしてもA社の話では1年くらいしかもたないということですから、プラスチックとほぼ同じ値段で1年しかもたないものはかなり難しいと思います。

毎年買わなければならないのであれば、ランニングコストが5倍になってしまうので。検討材料として出したので経済的な面からいくと外していただきたいです。今年買ってまた来年買うということになりますと財政的に難しいだろうなということですよ。

(委員長)

そういう話になりますと、ペットか竹製の2つに絞られたのですが、ただ、委員さんのなかでこれもぜひ候補の一つというものがあれば付け加えるのは可能です。

とりあえず、ペット、竹製の安全性ですね、たとえば産出国はどうかとか。

(D 委員)

竹製については、竹自体はもちろん安全なのですが、たぶん中国製とかですね。本当に安全なのかどうかという担保があるのかということのはちょっと心配しています。

(事務局)

中国の竹が危険という理由はないですね。

(D 委員)

中国の竹自体は危険ではないのですが、加工するときになにかされている可能性はないわけではないと思います。

(事務局)

それは例えばどんなことでしょうか。

私がさきほど言いましたけども、何か塗ったりすればそれは危険を感じますが。

(D 委員)

防腐処理がされているとか、竹ですから腐らないとは思いますが、中国製の合板とかは薬剤処理されているというのを聞きます。

(事務局)

合板は接着剤ということになります。それは不安ですよ。

(D 委員)

日本製で同じような処理をされていると言われているものと違うものを使っている場合があるみたいです。防腐処理とかに、検査の時は出ないけれども、後からでてくるというようなものがあるというふうに聞いています。

(事務局)

竹箸でのことですか。

(D委員)

いいえ、違います。普通の建材の合板です。

(事務局)

建材と箸は別に考えていただきたいと思います。

(D委員)

本当に中国製というものの安全性が信じられるのかというところは私個人としては不安があります。

(事務局)

そうしますと、逆にどんな材料がいいのかという提案をしていただかないと、全ての候補が無くなってしまうかもしれません。

(D委員)

そうですね。ないですね。

(事務局)

そうしますと、また戻ってどうしても持参していただくという話になってしまいます。これ以外の材質で箸としていいものがあればということですが。

(委員長)

今、不安材料を何点か言っていたら、それについて調べていただきますよね。その提示されたもので、我々みんな判断するしかないのかと思います。想像の中で話できませんので、調べられる範囲で調べて、安全性というのを調べていただいて提示してもらってそのなかで選んでいくということをしなないと話が切りなく不安な方にいってしまうと思います。

いま、ペットと竹製と2つになったのですが、それ以外ではありませんか。

(副委員長)

今使っている箸は変えるということですね。これは意外に使いやすく、重さもなく小さくても大きくても使いやすいので、これを変えなくちゃいけないのかなという思いが自分の中であるんですけど。変えるという方向性ですよ。

(委員長)

方向性については、私は先ほどの説明で理解できたつもりです。またこれに戻るのではなく、別な素材で考えた方がいいと思います。

(副委員長)

この2つ並んでいるのは、太さからいってもちょっと危ないとは思うんですけど。手の形がちがうのであれでしょうけど。

(委員長)

私は逆に小さくて細くて使いにくいんですけど。

(副委員長)

大きさによって全然違うと思うんですけど。

(委員長)

安全性という面で今まで使っていたこれが外れたという経緯がありますので、それについては理解していただきたいと思います。

(副委員長)

比べていかないと、無い品物が手元にあって比べないと値段だけで決まってしまうしね。

(委員長)

みなさん共通しているのは安全性ということで今心配なことをだしていただいて、それを事務局のほうで提示していただいた中で話し合いを進めていくという方向性はいいと思います。

問題はその2つだけでいいかどうかでいま確認しています。もし2つでよければ、今出てきたような不安材料について調べられる範囲になるとは思いますが、提示していただいて話し合っていこうと思いますが、いかがでしょうか。

それでは、確認いたします。

ペット、竹製の2つに絞って安全性とか、先ほど出た質問に対して資料を提示していただくという確認をしたいと思います。

(事務局)

ペットの箸につきましては、C社ということで、メーカー名がはっきりしておりますので、この箸についてはC社に問い合わせる問題ないと思います。ただ、竹製の箸につきましては、A社から納入してもらって、以前は使っていたので、A社から聞いてみたいと思います。

(委員長)

調べられる範囲も限られてくると思います。どこまで調べられるかというのはキリがないことであって、努力していただいて答えられる範囲でしかないと思います。

(E委員)

以前、江別で竹の箸を使っていた時に購入したメーカーっていうのはここにはないのですか。

(事務局)

過去のメーカーはわかりません。

記録が残ってないですね。かなり古いので。

資料1でメーカーが書いてあればいいのですが、A社は箸のメーカーではありません。箸なども取り扱いはしていますが、厨房機器メーカーですから、箸は製造していません。製造メーカーは、C社、D社、E社です。F社はA社と同じように厨房機器メーカーです。この資料に記載している事項は、調査した給食センターが書いてきたままです。ただアミハード箸は他の給食センターにも書いてあります。

(A委員)

I町で採用しているポリエーテルサルフォン樹脂、これはどうでしたか。

(事務局)

これも個別規格はないと思います。

(委員長)

時間もかなり過ぎてきましたので、今後の方向性について確認したいと思います。

次回、箸の選定の話になっていくのですが、ペットと竹製について事務局のほうでできる限り調べていただいて資料を提示してもらい、その2つについてこの検討委員会の中で箸の選定を進めていくということで、今日はとりあえず、ここまでにしておきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

次回はどのようになりますか。

(事務局)

学校の先生方は今回異動がないので、委員をそのまま引き受けていただけるのであれば、来月開催でもよろしいかと思いますが、市P連の方々の任期は今度2年目ですか。

(C委員)

はいそうです。役員交代はありません。

(事務局)

4月はみなさん忙しいという気がするのですが、5月までにはもう一度開催したいと考えております。

(委員長)

開催日は委員の皆さんの調整をしますので、どうしても駄目な方は仕方ありません。できるだけ多くの委員の方が参加できる日を事務局のほうで選定していただいて案内をいただくということで確認したいと思います。

次回は4月の23日の週でこの委員会を持ちたいと思います。

それでは、以上で第2回の検討委員会を終わりたいと思います。